

学生による語り合いのシンポジオン

2017.09.01 シンポジオン世話人会 野田真士

◆概要

テーマ 学生主体の建築活動
日時 2017年9月1日(金)14:30-17:00
会場 広島工業大学(広島市佐伯区)、
Nexus21・508 教室
参加者 22人 (以降敬称略)
内訳 職業人：後藤(長岡造形大)、広川(長岡造形大)
富樫(NPO 知識の結い)、
今村(舞鶴高専)、他2名
学生：広島大1、広島工大10、長岡造形大2、
福井大2、

◆タイムスケジュール

あいさつ：野田世話人代表
実施要領：野田世話人代表
話題提供と議論；座談方式
富樫：アニメによる地域おこし：富樫
野田：精神障害の福祉について：野田
参加学生全員プレゼン
広島大、広島工大、長岡造形大の各学生
職業人コメント
広川、後藤
総括：後藤
次回に向け：富樫、野田



会場風景

◆挨拶 野田世話人代表

大会における学生向けの企画で、学会大会の中日に実施しております、2007年から続いており、今回は11回目です。みなさん、知的交流を大いに楽しんでください。

◆話題提供と議論

1. おしゃべりのススメ〜アニメを楽しむ
・富樫：会話ではなくコミュニケーションともせず、言葉の呼吸といった感じでおしゃべりを楽しみたい。今回は、おしゃべりのロジックに迫ることをやめてアニメ「おおかみこどもの雨と雪」を初にして地域色を付け皆さんとお

しゃべりしたい。

用意したスライドで、アニメとロケーションの話に花を咲かせ、「おおかみこども」の舞台を対象として、自然や風景並びに古民家を取り巻く環境の魅力について大いに満喫してください。

- ・会場：そもそもそのロケーションの魅力はどこにあるのか。
- ・富樫：ごくありふれた当たり前の風景が主人公たちの生活の営みとなじんでいるからであろう。
- ・会場：おおかみこどもの主題曲が好き。最近、聖地巡礼が流行。行ってみたい。



アニメのモデルとなった古民家

2. 野田真士 (福井大学)

：知的障害者施設「ハスの実の家」での暮らしと実践

野田：知的障害者施設「ハスの実の家」においては、何においても自分らしく暮らすという最も大事なことを実践しています。「自分らしい暮らし」の実現のために、自由な選択性のある暮らし方が必要であること、さらには日常的に人や地域社会とつながることを念頭に置いて実践しています。

後藤：スタッフが安定していないと福祉はできない。
野田：同感です。本施設でもスタッフを大事にしております。
会場：施設に入居されている人は働かなくていいのか。
野田：できる範囲の仕事は施設内の仕事場でしています。

3. 小林 (広島工大4年)

：ガラススクリーンの壊れ方：

・小林：ガラススクリーンの壊れ方を研究している。ガラススクリーンは自動車のショールームに多用されている。壊す位置を変えながら、壊れ方をシミュレーションしている。



・会場：壊れ方には特徴的なことがあるのか、等の質問があった。

4. 小松（広島工大3年）

・小松：学部2年の時に建築のデザインに飽きたので、構造に進んだ。いまは、構造の面白さを見つけようと思っている。

・後藤：設計は積み上げの体系です。それを教える先生がいないから設計嫌いの学生が増える。教育の在り方を再検討すべきであり、人とのコミュニケーションが開閉策と考えている。

・小林：こんな建物を設計したいと思うものがあるのに、教員はダメと言って設計させてもらえない。すごく不満でした。それに、描くより計算が好きということもあって、デザインに決別し、構造の道を選びました。

・後藤：構造計画にもっと入れこんだら世界が広がります。

5. 加藤（広島大学4年）

・加藤：デザイン嫌いになり構造に進んだ。もともと地震に興味があったので、今は地盤振動の研究室で頑張っている。卒論のテーマは原子力施設の耐震である。



・会場：デザインは感性であるので、きれいになるという代物ではない。

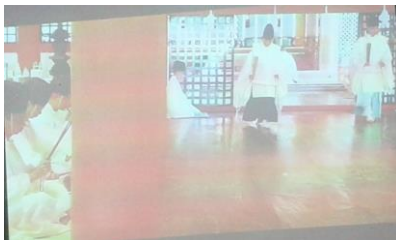
・加藤：そうならもっと教員が完成の話をして、デザインの何がどうのと説明すべきと思う。

・会場：確かに教員がまずそこらを理解していない。

6. 山口（長岡造形大3年）

・後藤先生が雅楽の映像を流される。

・山口：雅楽を見ていいなあと思った。



何か建築にもつながる感じがしてくる。ところが、建築では、教員は感情でデザインをといいながらも、感情について何も説明できずにいる。

日本伝統の感情をもっと建築に取り込んでいく。建築の在り方を日本文化の所作からもアプローチすべきと思っている。音の所作行動の作法は建築の作法となっていると考えている。



建築や庭園に適用されていると思っている。

・広島大や広島工大の学生：感情と感性とは一体何かとあって、ディスカッションが続いた。

7. 深川（長岡造形大M1年）

・深川：子どもの成育環境について研究している。今の保育はいいのかどうかあり方に疑問を持っている。生育の場には何が必要かを考えている。子供の問題を体系化することにより、感性が豊かになるはず。だから育つ場所の研究している。そこで、森の幼稚園に着目して、子どもがどんな環境が一番ふさわしいのか。研究している。

後藤：障害者は教育の被害者である。個性を認めないのが今の教育だからである。子どもの問題でも同じことである。

8. 広川（長岡造形大事務職員）

大学では授業を円滑にするために働いている。7年前から建築を楽しく学べられるよう1/10の建物模型を使って講義を進めている。

感情は皆さんの心の中にあります。イメージを感じるための素養を身につけるようにした。建それには築建物見学が一番いい。これまで一人でよく見学していたが、最近多数でいくようになった。ようやく自分が若かりし頃、先生に言ってもらったことがよく分かるようになった。

◆総括 後藤先生：

広川さんの話を聞いて、広川さんの一層の成長を感じた。

教育の問題は重要である。加藤君や広川さんの話にもあったように、教育や建築について、今の教育者は先人の教育者から何も受け継いでこなかった。特に

学生に対して言葉を出して説明責任を果たしてこなかった

ので、すべてについての感性が途絶えてしまったと考えている。

感性をもって建築文化をつくり伝えていくべきと考えている。

丹下さんは原爆を後世に伝えるという思いをもって原爆関連施設を作った。今、それが伝わっている。

経済的建築もいいが、しっかりと文化的建築をもつことで後世に影響を与えていくべきである。

◆おわりに

可能性を引き出す、そのチャンスと場が子のシンポジオンです。知的交流を楽しんでいただきましてありがとうございます。

学生の皆さん、これからも頑張ってください。おシンポジオンが有形無形に皆様方のためになりますように。

